

2. 「林木遺伝子銀行110番」の実施状況

独立行政法人森林総合研究所林木育種センター

巨樹・名木等樹木の寿命は百数十年から数千年と幅がありますが、人間と比べると遙かに長寿といえます。それらの木々は国の天然記念物等に指定されていたり、地域のシンボリックな存在として人々に愛され、大切に保護、保存されています。しかし、それらを全国的に見ると高齢等により衰弱がひどく、風前の灯火のように枯死が心配されているものも多く見受けられます。また、手当の甲斐もむなしく、既に枯死したものもあります。

独立行政法人森林総合研究所では、林木育種センターと林木育種センター北海道・東北・関西・九州育種場において、天然記念物など巨樹・名木等の樹木を対象に、所有者等の要請を受けて、森林総合研究所に保存する価値があり、かつ、後継樹の増殖の緊急性が高いものについて後継樹を増殖し、所有者等へ里帰りさせる「林木遺伝子銀行110番」のサービスを平成15年12月1日に開設し、実施しています。なお、増殖した苗木の一部は林木育種センターまたは各育種場に保存し、研究材料として活用させていただくことになります。

「林木遺伝子銀行110番」による増殖要請は、開設から平成20年2月末現在までに100件となっています。その内訳は、樹木の個体数で141個体、樹種別では35樹種で、マツ類、スギ、ケヤキ、サクラ類が多くなっています。他には、数は少ないですがキャラボク、メタセコイヤ、ローソンヒノキ、モッコク、ヤマナシ等があり、環境省が絶滅危惧種に指定しているハナノキの要請もあります。里帰りの概要は、開設から平成19年度末までに44件、61個体の後継苗木が里帰りします。その中には、北海道乙部町のカツラの大木「縁カツラ（森の巨人たち百選）」、石川県金沢市の兼六園の「根上松」、「唐崎松」、「巢ごもり松」等、東京上野公園にあるアメリカの大統領も務めたグラント將軍ゆかりの「グラントヒノキ（ローソンヒノキ）」、熊本県阿蘇市の「産神社のスギ」などがあります。今春3月4日には、福島県大玉村にある推定樹齢1000年、源氏の御大将八幡太郎義家ゆかりの国指定天然記念物の「馬場桜」の後継苗木が里帰りしました。里帰りは、村教育委員会と馬場桜保存会が主催して、寒い中集まった大勢の人々に見守られ、後継樹の植樹式が盛大に開催されました。皆さん、まるで嫁に出した娘が子供を連れて帰ってきたかのように喜ばれ、この仕事に関わった1人として、うれしく思いました。

要請手続きは、最寄りの森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索収集課（関東周辺）または林木育種センター北海道・東北・関西・九州育種場の遺伝資源管理課へ、相談をしていただき、受諾が可能となれば、増殖サービス利用申込書を提出していただきます（郵送可）。その後、原則として、要請者が小枝の採取を行い、送付を行います。小枝を受け取った林木育種センターまたは育種場では、さし木、つぎ木等による苗木の増殖を行い、移植が可能な大きさ（普通2～3年）になるまで養苗して里帰りさせます。

地域で大切にされ保護、保存されている巨樹・名木等が、衰弱し枯死の危機が迫っているなど、お困りの場合、又はこれらに関するご質問等がございましたら、独立行政法人森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索収集課（電話０２９４－３９－７０４８）へご相談下さい。

（独立行政法人森林総合研究所林木育種センター 遺伝資源管理主幹 下村康広）